

蛾の幼蟲、蛹、成蟲等の寫眞(10)

河 田 黨

(10) マヒマヒガ

Lymantria dispar subsp. *japonica* MOTSCHULSKY

幼蟲は剛い毛を澤山に生じてゐる。黒色で、幼い間は背面に黄色の斑紋を有する。老齡の幼蟲は黒色に黄灰色の不定形の細點を撒布する。背面兩側の瘤起は前胸乃至第2腹環節では青色、他の環節では赤色。

蛹も毛を有し、暗赤褐色。枝や葉の間に張られた絲の間に引懸つてゐる。

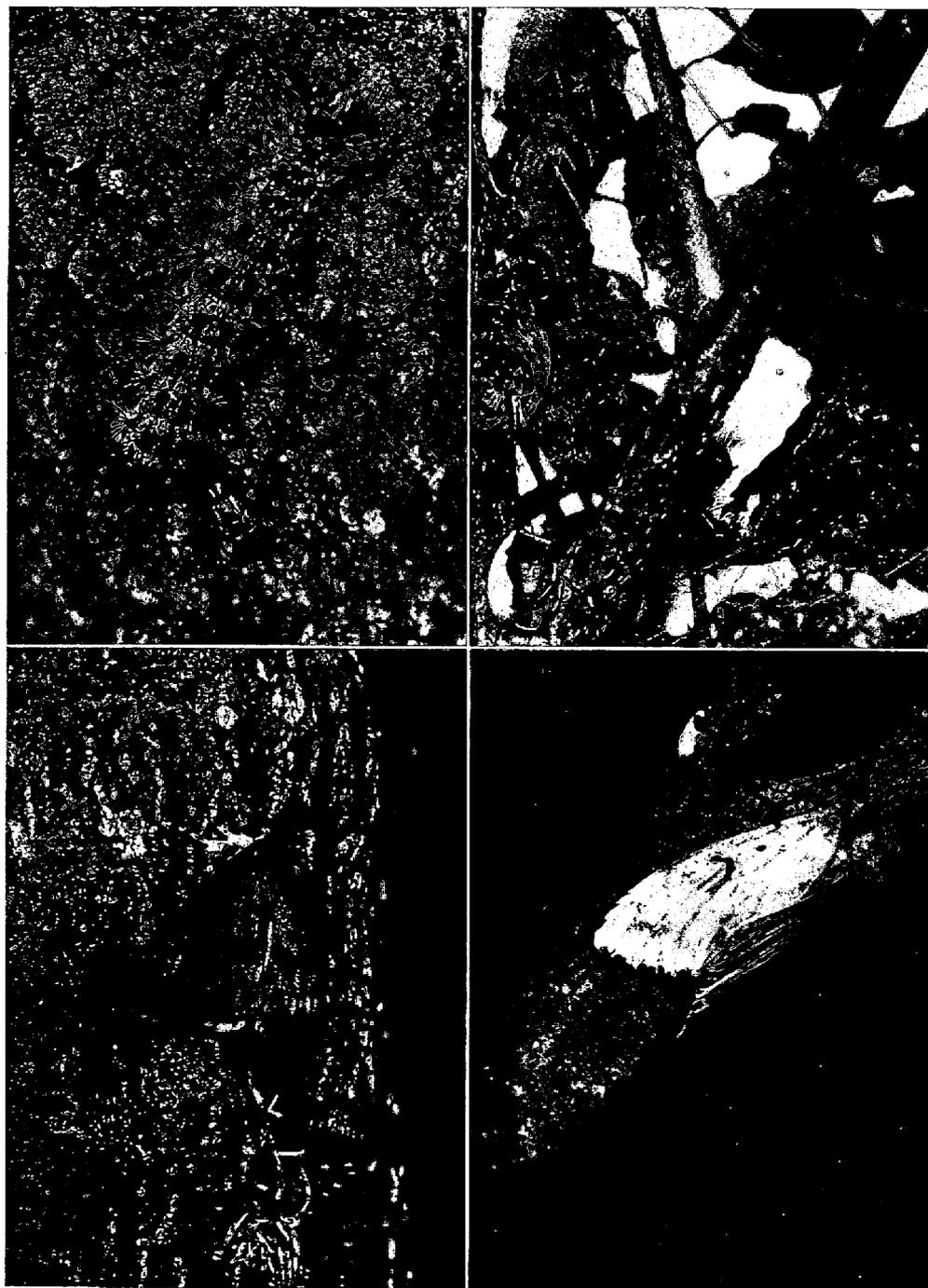
卵は塊をなして産附され、母蛾の黄褐色の尾毛で覆はれてゐる。

幼蟲はハンノキ・クヌギ・アカメガシハ・フジその他各種の植物の葉を食し、その食植物の種類が多いことで有名で、従つて森林・果樹などの大害蟲である。幼蟲はハンノキケムシ・ブランコケムシなどと呼ばれる。

卵は4月下旬或は5月上旬頃孵化する。幼蟲は6月中下旬頃老熟して蛹となり、6月下旬乃至7月中旬頃蛾となる。成蟲の雄は晝間活動して、飛び廻るので、舞々蛾と呼ばれる。雌蛾は交尾後卵を生む。卵は夏秋冬を越えて、翌春孵化する。

寫 眞 說 明

左上	老齡の幼蟲と寄生蠅	×1.0	1934年6月撮影
右上	蛹	×1.0	1934年7月撮影
左下	雄 蛾	×1.0	1931年7月撮影
右下	産卵してゐる雌蛾	×1.0	1931年7月撮影



マヒマヒガ

Lymantria dispar subsp *japonica* MOTSCHULSKY